

令和4年度

第17回「SYDボランティア奨励賞」受賞者名簿



後援:文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

受賞者一覧

(敬称略・順不同)

文部科学大臣賞

札幌市立宮の森中学校 科学部

科学工作ボランティア

(北海道)

優秀賞

【小・中学生の部】 陸別町立陸別中学校 ボランティア部

(北海道)

【高校生の部】 福岡県公立古賀竟成館高等学校
家庭クラブ

(福岡県)

【大学・一般の部】 山口学芸大学 ボランティアサークル
子どもの木

(山口県)

特別賞

■ 福島きずなプロジェクト 廣瀬 はる

(神奈川県)

☆第17回SYDボランティア奨励賞には、32都道府県より[小・中学生の部]21件、[高校生の部]25件、[大学・一般の部]22件の計68件の応募があり、選考委員会において厳正なる選考の結果、上記受賞者が決定されました。

SYDは、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立された社会教育団体です。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて117年、青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開しています。

文 部 科 学 大 臣 賞

札幌市立宮の森中学校 科学部 科学工作ボランティア

.....(北海道)

宮の森中学校科学部は、小学生とのふれあいを通して『実験や工作を通して科学の楽しさを伝える』をテーマに、小学生に科学工作を教え、科学の楽しさを伝える科学工作イベントのボランティア活動を行っている。この活動では、科学工作を体験した小学生がよろこびに満ちた表情をしていることはもちろんのこと、小学生に科学工作を教える中学生も小学生とのふれあいから、よろこびを感じ、科学に興味をもち、授業に前向きに参加する様子も見られる。また、小さな子に教えることを通して教師になりたいという夢をもつ生徒も出てきている。

科学工作イベントは、当初公的機関主催の行事への参加で始まったが、今では小学生とのふれあいを通じた活動に賛同した、卒業生の保護者が中心となって作った保護者団体が月1回のペースで主催するイベントへの活動が主流となり、部を代表する活動になっている。イベントの中核に子ども達同士のふれあい活動が据えられている。小学校低学年の児童や園児に対して、ふれあいを通して科学実験や工夫を教え、体験活動を行う。この種の活動は大人の指導者を主としたものが多い中、中学生が主体となり児童とふれあい、共によろこびを分かち合う活動は特徴的で、新しい試みであると考えている。

中学生のボランティア参加は、それ自体が楽しい活動であり、魅力的なだけではなく、主催団体に属する大人達が彼らに場を与えたいと考えたり、参加者の小学生にも刺激や目標を与えたりするなど、部員のふれあい活動(種)が、様々な人に影響(よろこび)を与えている。またイベントに参加する児童の保護者も、中学生とふれあう様子を会場で見守っているが、大人の指導で教えられるよりも、兄弟のような中学生の指導を受けているわが子の反応に強い関心を示している。各家庭では感じることのできない、兄弟関係的な情操への影響も期待している面が見られる。

科学工作を通して小学生とふれあい、喜びを伴った実験の楽しさを伝える活動は、『習ったことをそのまま伝達すると、できる』ように思える。しかし、多様な少年の子ども達のやりとりを経験すると、人それぞれ理解度の違いがあることに気が付く。経験を重ねるたびに、大人の指導者と同じように中学生も『自分の頭で考え、創意工夫を重ね、わかりやすく伝えようとする』工夫をするようになる。宮の森科学部が行っている科学ボランティアは単なる方法の伝達という役割にとどまらず、生徒の主体性(創意工夫)を引き出し、よりよいコミュニケーション(ふれあい)を図ろうとする、体験学習の場となっている。

さらに思いやりを伴った取り組みになることを目指し、特別支援学級教諭を講師に招いた勉強会を行い、障害のある子も楽しく参加できる活動にするにはどうしたらよいか、大人のボランティアスタッフと意見交流を行い、そこでの学びを活動に生かしていきます。



地域の会館で行った科学工作



部員と子ども・保護者がふれあう様子



地域で評判となり、ホールでイベント開催



勉強会の様子



小学生とふれあい、科学の楽しさを伝えている



科学工作プログラムの準備を行っている

優 秀 賞

【小・中学生の部】 陸別町立陸別中学校 ボランティア部

(北海道)

当ボランティア部は、これまで運動部しかなかった陸別中学校に文化部を作ろうということで平成21年に発足した。発足当初はカネラン峠やふるさと銀河線の清掃を主な活動としていたが、それらの活動を知った町民の方が声をかけてくれ、現在の活動につながっている。活動内容は、①保育所訪問：保育所と連携し、夕方の預かり保育の時間にレクリエーションを実施②子どもカフェ：社会福祉協議会の活動の一つであり、来場された子どもたちと工作をしたり、宿題を教える③高齢者施設訪問：現在はコロナウィルス感染症の影響もあり、訪問ができないが、利用者の方々を元気づけられるようにメッセージカードと花束を作って渡している④一人暮らしの高齢者へのメッセージカードづくり：陸別町には独居の高齢者が多く、交流の場が減っていることから社会福祉協議会の取り組みであるメッセージカードづくりに協力している⑤町内ゴミ拾い：町内の方々と挨拶を交わし、ゴミ拾いをしている⑥校内清掃⑦雑巾・アクリルタワシづくり。

今年度は「だれかのために行動する」ことを目標の1つとして、部員のため、同級生や先輩のため、学校のため、家族のため、地域の人のためになるように活動について意見を出し合い取り組んでいる。去年は6名だった部員が11名に増え、より明るく、元気に日々活動している。

活動の大きな特徴は、「地域とのつながり」です。町内の機関と連携をしながら、さまざまな活動に取り組むことで、生まれ育った町や町民の方々とボランティア活動を通じたつながりを持つことが出来、特に普段はつながりのない人たちと遊びや贈り物を通して交流できることが良い経験になっていると考えます。

活動した結果、保育所や保育士の方々から「また保育所に来てほしい」と言った声や、メッセージカードの作成への協力についても「今後も続けてほしい」といった声をいただき、今年目標である【だれかのために行動する】ことが実現できていると考えている。また相手が喜んで様子や自分たちが普段使っている道路がきれいになっていくところを見たり、聞いたりすることができて、以降の活動へのモチベーションになっている。

今後も地域の機関等と連携を図り、現在行っている活動を継続していきつつ、新たな活動も取り入れていきたい。今年に入って、地域の企業から一緒にゴミ拾いをさせてほしいといった話が出てきたこともあり、活動を通じてボランティアの輪が広がっていくことを期待している。



保育所を訪問し、「釣り」を1～2歳児に挑戦してもらいました



子どもカフェで、小学生と一緒に迷路を解いています



一人暮らしの高齢者に向けたメッセージカードです



学校裏の道路のゴミ拾いをしています



地域の方々から労いの言葉をかけられながら、ゴミを回収しています



部員が作った雑巾やアクリルタワシは、清掃活動で全校生徒が使っています

【高校生の部】 福岡県公立古賀竟成館高等学校 家庭クラブ

(福岡県)

家庭クラブは、「創造・勤労・愛情・奉仕」を活動の中心に掲げ、家庭科の授業で習ったことを、生活で実践することによって、家庭や地域社会をよりよくしていくことを目標としている。ここでは「研究活動」「ボランティア活動」「交流活動」を行い、授業で身に着けた知識をアウトプットできる体験活動を通して実践力を養っている。これまで、スコーンやクリスマスツリーをモチーフにしたタルトを作り、また校内のトイレ環境を整えるためにトイレトーパーホルダーを製作した。さらに SDGsの視点で「食品ロス」について調べ、自分たちで食品を使い切ることを意識したメニューを考案した。

今年度は「SDGs万華鏡“KAGUYA”プロジェクト」に取り組んでいる。これは山の問題である「竹」の課題と海の問題である海洋ゴミからとれるシーグラスやプラスチックを使って万華鏡を制作し、今まで別々に考えられてきた山と海の問題を同時に解決していこうというもの。それぞれ課題を抱えている山側と海側の2つの小学校と連携し課題解決に取り組み、課題への理解を深めるために小学生たちとオンラインで海・山問題について学習を行った。最初の活動は竹林整備で、小学生が竹を切り高校生はサポートするという形で万華鏡の材料になる竹筒作りに取り組んだ。次の活動は海岸清掃で、海岸清掃を始めた時、目立ったごみは見えなかったが、砂に網やビニールが埋まっていたり岩の間にペットボトルや空き缶が挟まっていたりと探すと大量のごみがあった。今後は伐採した竹と海岸清掃で集めたシーグラス・プラスチックを使って世界に一つだけの万華鏡を作成します。

活動の特徴は①2つの小学校と連携し課題解決に取り組んでいること。高校生と小学生という普段ではあまり関わりの少ない交流をすることでお互い様々な刺激を受けることができる②今まで独立的に考えてきた海・山の問題を同時に考え、解決していくことができる、ことです。万華鏡は少し動かすだけで、今見ていたきれいな模様とは違う模様が次々と姿をあらわす。物事を一つの方向からだけではなく柔軟に視点を変え、様々な方向から見ることは、何を考える時でもとても大切なことで、万華鏡を通して、SDGs課題、地域や世代の違う人の関りなどたくさんのことを考え、経験し、これからの成長につながっている。

これまで地元地域に数多く存在する課題を生徒自身が自ら興味・関心をもって、洞察、観察、対話、交渉、反省、学習の再構築の過程を経て課題解決を進めていくことができた。活動を通して、①地元地域のことに對して倫理・価値観を持ち生涯にわたって地元地域とは何らかの関係を結びつくことができる人材になる②海外からの漂流物を知ることで、地域の改善すべき課題は世界とつながりあって大きな問題になっている、など環境保全の重要性を考えるきっかけになった。

今後の計画は、万華鏡を使って高齢者と交流を行い、地域社会に貢献していくことと、万華鏡“KAGUYA”の商品化です。地元の企業・行政と連携し商品開発していき、さらにこれから多くの方々と力を合わせながら、地域の課題に取り組み、様々な課題解決へとつながっていきます。



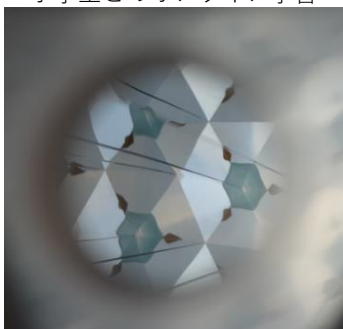
小学生とのオンライン学習



竹林整備 竹切り作業



海岸清掃 シーグラス・プラスチック探し



万華鏡から覗いた景色



万華鏡の作り方を説明



連完成した万華鏡のお披露目

【大学・一般の部】 山口学芸大学 ボランティアサークル 子どもの木

(山口県)

.....

子どもの木は、平成19年に山口学芸大学1期生により発足し2022年で15年目を迎え、現在100名程度の「先生」を目指す学生が多く所属している。在学中にたくさん子どもたちと触れ合い、「子ども学のスペシャリスト」を目指す学生として、子ども達に夢や希望を与え、成長できる場を設けたいという思いで始まった。「子どもの木」という名前には、私たちの周りに集まってくれる子ども達という花がきれいに咲くように、木や幹である私たちが支え、一年がたつ頃にはまた新しい花を咲かせてあげるといった思いが込められている。

私たちは様々な活動を行っており、特に4つの活動に力を入れている。1つ目は周南市大田原自然の家での事業支援である。四季折々の自然体験活動をおこなっており、秋に行われるキャンプは私たち自身で活動を考えている。2つ目は国立山口徳地青少年自然の家での事業支援である。ここでは法人ボランティアとして活動しており、自然を思う存分に楽しんでもらいたいという思いの下、非日常体験をする子ども達の心と体の安全をサポートしている。3つ目は、私たちが企画、運営しているサンタ企画で、子ども達に夢を与えることができる工夫を皆で考えている。4つ目は子どもの居場所づくりである。この活動は市の委託により運営されている母子生活支援施設・沙羅の木で、私たちはボランティアとして、学習支援や外遊び、みんなで食べるご飯など楽しい時間を過ごし、子どもと共に成長している。

本サークルの特徴としては、学生が一から企画していることである。例えば「秋の子ども村」では、1泊2日のキャンプの企画を行い、子ども達が自然と触れ合い、新しい発見をしたり、学びあったりすることができるよう5か月かけて準備し、子ども達の主体的な活動をサポートする。また「サンタ企画」では子ども達に夢の時間を過ごしてもらうために、参加家庭募集からプレゼントを届けるまでの全ての過程を企画運営しており、地域との関わりを強く意識し、大学祭、保育所や幼稚園に協力してもらい、応募 BOX を設置している。大学近辺、市内外の家庭から応募があり、それらの家庭と連携することで、地域に根ざしたサークル活動を実現させている。また、公式 Instagram を設置し、活動の様子を知ってもらいたいと願い発信している。さらに地域や関係機関とのネットワークも意識しながら活動している。

本サークルの今後の展望は、地域や他の学校とのつながりと、子ども達と共に学び続けることである。私たちはこれまでも地域に根付いた活動を行い、地域の方との連携も大切にしてきた。地域の方と関わることで、子ども達と共に地域を更に活性化させ、私たち自身も成長していくことを目標にしてきた。学習支援ボランティアにおいて、プログラミングの導入部分の学習支援も始まり、ICTやプログラミングにも対応できる体制を作っている。またコロナ過であっても子ども達に楽しさと学びを得てもらう活動を日々考えている。これからも地域や他の学校との交流を深めると共に、子ども達と共に学びあえる環境を新しく作り出していこうと考えている。



大田原自然の家での秋を感じるウォークラリー



国立山口徳地青少年自然の家でのフィールドビンゴ



子どもの居場所作りでの余暇支援



サンタ企画



大田原自然の家でのキャンプに向けた事前調査



スキルアップのための研修

特 別 賞

福島きずなプロジェクト 廣瀬はる

(神奈川県)

福島は父の故郷であり、小さい頃から親しみのある地域である。4年半前、中学生だった私は原発事故で被災した双葉郡を訪れ、人や店の少なさに驚いた。その日、地元の特産品を用い、地元の企業とともに開発した「みかん大福」などの商品を販売する高校生と出会った。高校生が被災地の地域活性化のために活動していることに刺激を受け、私も東京でできることをしたいと考えた。12回のチャリティー販売会を3年間姉妹で行ってきたが、コロナの影響により継続が難しくなった。そこで「この状況でも多くの方とつながる活動をしたい」と考え、写真で福島の「魅力」と「今」を発信するプロジェクトを始めた。

昨年約2000枚の福島の写真とメッセージを集め、その全ての写真を使って双葉郡の桜並木の風景の一枚の大きなフォトモザイクアートを作成した。作品は、双葉郡広野において、震災10年の記念式典メインステージに展示されたほか、神奈川の国際交流施設、福島空港など15箇所で開催していただいた。より多くの方にメッセージを伝えるために、フォトブックも製作し102箇所に送付した。また展示会に来てくださった方々の思いを福島へ伝えることで、元気を届けたいと思い、「葉」にメッセージを書いていただき、「メッセージの木」を作成、展示した。メッセージの木とフォトモザイクアートと共に、首都圏と福島の間を移動し、展示会ごとにメッセージの葉が大きく茂り、首都圏から福島へ、福島から首都圏へのメッセージを届け合う交流を大事に行っている。

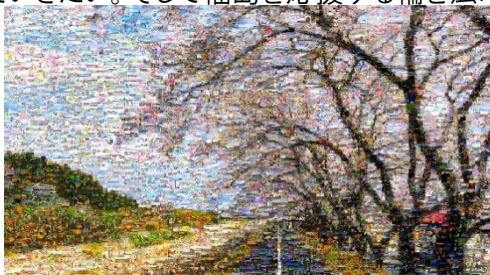
このフォトモザイクアートは双葉郡の桜並木の景色となっており、その風景は応募の一枚の写真が元となっていて、「浪江町で帰還解除となった年に咲いた桜です。町民を待っているかのように咲いていました」とメッセージが添えられていた。私たちは復興の願いを込め「未来へのまっすぐ続く一本道」を表現した。このフォトモザイクアートは実にたくさんの方からの「力」が合わさっていることが特徴です。またフォトブックは海外の方にも見ていただけるように、世界各地の日本大使館や国際交流施設になどに送り、展示、閲覧していただいた。

このプロジェクトは地域の情報誌・タウンページが「世界に届け福島の魅力 廣瀬さん三姉妹の挑戦」という記事にしてくれて、地元の方からも多くの応援の声をいただいた。また、海外から「福島の土を踏みたくくなりました」、首都圏から「福島へ行ってすてきな景色を自分の目で見てみたい」など350通をこえるメッセージが届き、そのメッセージを福島に伝えることができた。

今後の展望は①福島の魅力を発信し、多くの方の福島への想いを福島に届ける活動を継続し、フォトモザイクアートやフォトブックを通して、福島の写真とメッセージを多くの方に見てもらい、一緒に魅力を共有していきたい②新たな繋がりを作ること。魅力溢れる福島を伝えるため、Instagram「福興きずなプロジェクト」やホームページ等で発信している。それをさらに充実させ、今後は福島の方や福島に関心を持っている方、いままで関心のなかった方を繋げる役割を担っていききたい。そして福島を応援する輪を広げていきたい。



川崎市プレーメン通り商店街での福島の商品のチャリティー販売会



2000枚の福島の写真で双葉郡浪江町の真っ直ぐに続く桜並木を描きました



双葉郡広野町の震災後10年の祈念式典のステージで展示



成田空港での【フォトモザイクアート・福島の写真・フォトブック】の展示会



双葉郡富岡町での【フォトモザイクアートとメッセージの木、フォトブック】の展示会



フォトブックをコロンビア大使館にお届けしました

第 17 回 SYDボランティア奨励賞 実施要項

公益財団法人修養団では、昭和57年より平成13年まで「蓮沼門三社会教育奨励賞」により多くの優れた社会教育活動を実践した個人、グループ・団体を顕彰して参りました。この実績を踏まえ、平成18年に創立100周年を記念し、新たに「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰する「SYDボランティア奨励賞」を設立しました。

主 催：SYD（公益財団法人修養団）

後 援：文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

1. 趣 旨

今日、次代を担う青少年の健全育成はますます重要な課題となっている。そこで、ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげたグループや個人を顕彰することにより、青少年のボランティア活動を促進するとともに、活動の習慣化を図り、生きる力や豊かな心を育むなど青少年の健全育成に寄与する。

2. 対 象

原則として、ボランティア活動を実践している学校（生徒会、クラス、クラブ等）やPTA、子ども会等のグループ及び個人

3. 選考基準

次の項目に該当し、高い評価を得られたもの

- (1) ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげ、今後の活動に期待のできるもの
- (2) ボランティア活動に創意工夫や新しい方策を取り入れ、新機軸を拓き、今後の活動に期待のできるもの
- (3) ボランティア活動を受け入れ、施設の利用、改善、充実に努め、活動の活性化に寄与している施設またはそれを推進する活動
- (4) 青少年の健全育成を目的としたボランティア活動を実践し、将来が期待されるグループ及び個人

4. 選考方法

学識経験者等7名に選考委員を委嘱し、選考委員会にて決定する。

5. 表 彰

文部科学大臣賞 1点

クリスタルトロフィー(表彰状)、副賞(活動奨励金20万円またはSYD「青年ボランティア・アクション in フィリピン」へ1名招待)

優 秀 賞 3点

クリスタルトロフィー(表彰状)、副賞(活動奨励金10万円)

特 別 賞 1点

クリスタルトロフィー(表彰状)、記念品

6. 贈 呈 式

期日 令和5年2月11日(祝・土)

会場 SYDホール(東京・渋谷区)



7. 募集方法

都道府県教育委員会、社会教育団体、青少年団体、学識経験者およびSYD組織、関係者に推薦を依頼するとともに、新聞、雑誌等のマスコミに広報を依頼する。

8. 応募方法

所定の様式に必要な事項を記入し、活動報告書の上に添付して下記まで送付する。

9. 締め切り

令和4年11月30日

10. 申込み・問合せ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2 SYDボランティア奨励賞 係

TEL:03-3405-5441 FAX:03-3405-5424

E-mail:info@syd.or.jp <https://syd.or.jp/>

選 考 委 員		(順不同・敬称略)
明石	要一	(千葉大学名誉教授、千葉敬愛短期大学学長)
鈴木	優子	(前[学]立教女子学院理事・法人事務局長)
富士道	正尋	(全日本中学校長会事務局長)
長沼	豊	(学校法人茂来学園大日向中学校校長、前学習院大学教授)
山田	一功	([社福]ひかりの里理事長、[公社]日本PTA全国協議会元副会長)
御手洗	康	([公財]修養団理事長)
山崎	一紀	([公財]修養団主幹)

過去受賞者一覧

(敬称略・順不同)

第1回(平成18年度)

文部科学大臣賞 京都市立京都御池中学校(京都府)
優 秀 賞 【小学生の部】 鏡石町立第一小学校(福島県)
*【高校生の部】該当なし 【中学生の部】 庄原市立東城中学校(広島県)
【大学・一般の部】 合同ボランティアネットワーク(神奈川県)
特 別 賞 ◆国崎翠・吉居夏奈(北海道) ◆美幌町青少年育成協議会(北海道) ◆喜多方市
山都
第一小学校(福島県) ◆熱海市立小嵐中学校(静岡県) ◆加藤ひとみ(岐阜県) ◆伊江
村
立伊江中学校(沖縄県)

第2回(平成19年度)

文部科学大臣賞 香川県立多度津水産高等学校(香川県)
優 秀 賞 【中学生の部】 木更津市立鎌足中学校(千葉県)
*【小学生、一般の部】該当なし 【高校生の部】 学校法人高倉学園豊橋中央高等学校(愛知県)
特 別 賞 ◆天草市立城河原小学校(熊本県) ◆志布志市立通山小学校(鹿児島県) ◆東
横学園中学・高等学校 中学2年(東京都) ◆多治見市立多治見中学校(岐阜県) ◆
神奈川県立相原高等学校「相っこプロジェクト」(神奈川県) ◆熊本県立盲学校(熊本
県) ◆立命館大学国際部国際協力学生実行委員会(京都府) ◆ブラジルを美しくする
会(ブラジル)

第3回(平成20年度)

文部科学大臣賞 学校法人篠ノ井学園 長野俊英高等学校 郷土研究班(長野県)
優 秀 賞 【中学生の部】 新宮町立新宮中学校相島分校 相島少年消防クラブ(福岡県)
*【小学生の部】該当なし 【中学生の部】 2008 年度屋久島町立小瀬田中学校2年生「笑顔」プロジェクト(鹿児島県)
【高校生の部】 更級農業高等学校 農業クラブ 農業応援団「ねこの手隊」(長野県)
【大学・一般の部】 八雲ジュニアサポーターズクラブ(島根県)
特 別 賞 ◆尾道市立三幸小学校(島根県) ◆鳴門市第一中学校 ボランティア部(徳島県)
◆富山県立小杉高等学校 生徒会(富山県) ◆富貴中おやじの会(愛知県)
◆高知朝倉里山を造る会(高知県)

第4回(平成21年度)

文部科学大臣賞 豊田市立崇化館中学校 麦の会(愛知県)
優 秀 賞 【小学生の部】 日吉子どもサミット(滋賀県)
*【一般の部】該当なし 【中学生の部】 名古屋市立はとり中学校(愛知県)
【高校生の部】 中央学院高等学校 生物部(千葉県)
特 別 賞 ◆SYD北海道クラブ(北海道) ◆横浜市立岡村中学校(神奈川県) ◆長野県飯田
風越高等学校国際教養科3年(長野県) ◆みんなでつくる学校 とれぶりんか(大阪府)
◆広島文化学園短期大学 食物栄養学科(広島県)

第5回(平成22年度)

文部科学大臣賞 高知大学 高知子ども守り隊 守るんジャー(高知県)
優 秀 賞 【小学生の部】 御前崎市立御前崎小学校(静岡県)
【中学生の部】 京都市立嵯峨中学校(京都府)
【高校生の部】 江楠学園 北陵高等学校 生徒会(佐賀県)
【大学・一般の部】 東海大学海洋学部環境サークル E.C.O(静岡県)
特 別 賞 ◆清水町立清水中学校 劇団8・9組(静岡県) ◆宮城県立塩釜高等学校地活生

化班

塩釜ぼんぼん(宮城県)◆愛知県立日進高等学校(愛知県)◆京都精華大学ホスピル
アートボランティアグループ(京都府)

第6回(平成23年度)

文部科学大臣賞
優 秀 賞

善通寺市立東中学校 ボランティア部(香川県)
【小学生の部】御蔵島村立御蔵島小中学校 黒潮会(東京都)
【中学生の部】港区立青山中学校 お話会(東京都)
【高校生の部】岡山県立久世高等学校 家庭クラブ(岡山県)
【大学・一般の部】西部点字パソコンサークル・ステップ(静岡県)

特 別 賞

◆大和市立渋谷中学校(神奈川県)◆新潟県立柏崎工業高等学校 防災エンジニアコース3年生、2年生(新潟県)◆栃木県立栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班(栃木県)◆出雲西高等学校 インターアクトクラブ(島根県)◆播磨マリクルー(兵庫県)

第7回(平成24年度)

文部科学大臣賞
優 秀 賞

埼玉県立桶川西高等学校 科学部(埼玉県)
【小・中学生の部】藤岡市立東中学校 生徒会(群馬県)
【高校生の部】盈進中学高等学校 ヒューマンライツ部(広島県)
【大学・一般の部】旭川医科大学 育児院学習サポート(北海道)

特 別 賞

◆喜多方市立第三小学校(福島県)◆^{ボランティアサークル}V・C・イヤリング(愛知県)◆東京都立大島海洋国際高等学校 ボランティア部(東京都)◆^{あじしま}網地島ふるさと楽好^{がっこう}(宮城県)

第8回(平成25年度)

文部科学大臣賞
理事長特別賞
優 秀 賞

鳥取大学 障害児教育研究会(鳥取県)
石巻市立牡鹿中学校「笑顔創造プロジェクト」(宮城県)
【小・中学生の部】宇都宮市立泉が丘中学校(栃木県)
【高校生の部】京都府立宮津高等学校 建築科(京都府)

*【大学・一般の部】該当なし

特 別 賞

◆北海道小樽工業高等学校ボランティア同好会(北海道)◆福島県立平工業高等学校 生徒会(福島県)◆身延山高等学校 手話コミュニケーション部(山梨県)

第9回(平成26年度)

文部科学大臣賞
理事長特別賞
優 秀 賞

いなべ市立大安中学校テクニカルボランティア部(三重県)
東洋大学学生ボランティアセンター(東京都)
【小・中学生の部】塩尻市立榎川中学校雪かきボランティア(長野県)

*【大学・一般の部】該当なし

特 別 賞

【高校生の部】岩手県立久慈工業高等学校(岩手県)
◆青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS(青森県)◆末吉つ子支え隊(愛知県)

第10回(平成27年度)

文部科学大臣賞
理事長特別賞
優 秀 賞

熊本市立天明中学校 生徒会(熊本県)
千葉黎明高等学校(千葉県)
【小・中学生の部】沼津市立片浜中学校 生徒会(静岡県)
【高校生の部】山口県立柳井商工高等学校まちづくりプロジェクトチーム(山口県)
【大学・一般の部】西九州大学 ESRDサークル(佐賀県)

特 別 賞

◆渋川市立渋川南小学校(群馬県)◆北海道函館水産高等学校 北のくにづくり2015(北海道)◆高知県立中村高等学校西土佐分校 地域ボランティア隊Rapport(高知県)◆国際基督教大学 劇団虹(東京都)◆摂南大学 ボランティア・スタッフズ

(大阪府)

第11回(平成28年度)

文部科学大臣賞 豊後高田市立戴星学園(大分県)
理 事 長 賞 神奈川県立吉田島高等学校 草花部(神奈川県)
優 秀 賞 【小・中学生の部】唐津市立浜玉中学校 (佐賀県)
*【大学・一般の部】該当なし 【高 校 生 の 部】大森学園高等学校 おもちゃの病院(東京都)
特 別 賞 ◆長野県下高井農林高等学校 園芸福祉クラブ(長野県)◆九中校区すこやかネット(大阪府)

第12回(平成29年度)

文部科学大臣賞 兵庫県立舞子高等学校 天文気象部(兵庫県)
優 秀 賞 【小・中学生の部】名古屋市立北山中学校 ボランティア部 (愛知県)
*【大学・一般の部】該当なし 【高 校 生 の 部】東京都立大島高等学校 カメリアユナイテッド(東京都)
特 別 賞 ◆広島県立広高等学校 書道部(広島県)

第13回(平成30年度)

文部科学大臣賞 多摩市立東落合小学校 ゴミ出しボランティア(東京都)
優 秀 賞 【小・中学生の部】北九州市立霧丘中学校 特別支援学級「econnect project」(福岡県)
【高 校 生 の 部】宮城県名取北高等学校奉仕活動部(宮城県)
【大 学 生 の 部】BLUE WALK(愛知県)
特 別 賞 ◆名古屋市立工芸高等学校 WEB 部(愛知県)◆名城大学 ボランティア協議会(愛知県)

第14回(令和元年度)

文部科学大臣賞 島根県立大学 献血サークル あかえんぴつくん(島根県)
優 秀 賞 【小・中学生の部】稲城二中シンガーズ(東京都)
*【大学・一般の部】該当なし 【高 校 生 の 部】名古屋市立工芸高等学校 防災チーム(愛知県)
特 別 賞 ◆復興支援東北の物産販売 高校生プロジェクト in 岩見沢(北海道)◆宮城県農業高等学校 次世代の被災地語り部ボランティア(宮城県)

第15回(令和2年度)

文部科学大臣賞 北九州市立大学 地域共生教育センター 子ども食堂応援プロジェクト(福岡県)
優 秀 賞 【小・中学生の部】刈谷市立雁が音中学校(愛知県)
【高 校 生 の 部】青森県立名久井農業高等学校 5代目 TEAM PINE(青森県)
【大 学 生 の 部】ベイラー大学 ベイラー・イン・ジャパン(アメリカ)
特 別 賞 ◆名寄市立名寄東中学校 ボランティア部(北海道)◆福島県立平工業高等学校 生徒会(福島県)

第16回(令和3年度)

文部科学大臣賞 唐津南高校 虹の松原プロジェクトチーム(佐賀県)
優 秀 賞 【小・中学生の部】姫城中学校 姫ボラ(宮崎県)
【高 校 生 の 部】群馬県立大泉高等学校 植物バイオ研究部(群馬県)
【大学・一般の部】東京家政大学ヒューマンライフ支援センター
地域小学校との食育連携プロジェクト(東京都)
特 別 賞 ◆山鹿市立鹿北中学校 生徒会◆熊野高等学校 Kumano サポーターズリーグ部

(和歌山県)



SYD『幸せの種まき運動』

—みんなでまこう！幸せの種—をスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの‘幸せの種’をまいていこうという運動です。

さりげなく、よろこんで、出来るだけ‘幸せの種’をまいていきましょう。

種をまくときは、あなたの“笑顔”という栄養分を添えて！

《三つの‘幸せの種’》

☆こんにちは！という

‘ふれあいの種’

☆どうぞ！という

‘思いやりの種’

☆ありがとう！という

‘よろこびの種’